

## 会派視察・研修報告書

会派名 市井の会

代表者名 若林正人

1 日にち	令和5年2月1日(水)
2 視察先 研修名、主催者及び会場	仙北市
3 参加者	加藤元司、林美行、若林正人、奥村孝宏
4 調査・研修の内容	小中学校の学力向上の取組について
5 主な内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・学力検査の結果(推移)について</li><li>・仙北市(秋田県)の教育指針について</li><li>・時間割(日課)について</li><li>・朝(授業前)時間の活用について</li><li>・教科書以外(副教材)の活用について</li><li>・学校職員の配置基準(教員を支援するスタッフなど独自で配置している職員があれば)</li><li>・その他特徴的な取組について</li></ul>
6 所感、提言事項、 課題等	<p><b>【議員氏名】加藤元司</b></p> <p>仙北市教育委員会教育部長藤村幸子氏と教育文化研究所長門脇貴一郎氏の両氏による仙北市の学校教育について研修した。</p> <p>仙北市は面積で多治見市の10倍、人口は約4分の1の自治体だが、小学校6校、中学校も5校である。小学校では現状複式学級にせざるを得ない校もある。こうした環境にあっても、全国学力テストに於いては、国や県と比較して「概ね満足できる状況」にあるという成果を残しているのは、その教育方法に特色があるのではないかと考えて、今回の研修を企画した。</p> <p>“ふるさとを愛し、豊かな心、確かな学力・健やかな体をもち、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども”の育成のために、4月に“仙北市教職員の集い”を実施し、</p>

6 所感、提言事項、  
課題等

最新の動向の伝達、市の方向性を伝え、全員のベクトルを揃える。

市教委訪問・指導主事訪問・市初任研などを重ね、11月には仙北市教育研究大会を実施する。全国学力テスト後は、その分析を行い、改善委員会、評議員会による年度反省を行い学校評価する。この様な一年間のサイクルの中に学力テストが組み込まれP D C Aサイクルがポイントと言えるかもしれない。

更に、市教委訪問が各5回、県独自の指導主事訪問は53回を数える。また教育専門官を各教室に配置し、I C Tを利用したアナログ・デジタルのハイブリッド教育が試みられる。

ノート学習という名の家庭学習を実施し、自分が得意なこと、苦手なことを考えて、今学ぶべきことを判断して学習するという「学び方を学ぶ」という意識が生徒に現れつつある。

**【議員氏名】 林 美行**

猛吹雪の角館で伺ったお話は、その熱意。その体系的な構造。を伺うことで寒さを感じることはありませんでした。秋田県と市が連携して、人づくりという基本的な点で基本的なベクトルが共有されており、教育の体系を長い時間を通して洗練してこられたことがよくわかりました。

多治見市のように、県教委と多治見市が微妙な距離が感じられたり、短い任期の市長のかかわりにより、教職員が子供に向き合い続けるという基本から離れることがあるのではないかと考えていた私にとっては、教育部局のあるべき姿、以前感じた教育委員会の空気を思い出しました。

教育長を一般事務職から選ぶという、ここ20年程度の多治見市の取り組みを点検して、いつでも子供たちと共にあるという教職員を大切に、育てる方向に転換させないといけないのではと強く考えました。

**【議員氏名】 若林正人**

仙北市に限らず、秋田県内各自治体の教育委員会が連携をし、小中学生の学力向上に励まれていることがよく分かった。

総じて東北人は「口が重い」との印象を持たれることが強いとされる。特に方言の強い当地では、話す人が安心して話したくなるような、あたたかい聞き方、うなずいたり、つぶやいたりして聞く」が大切で、自然なつぶやき（相づち）を心がけて聞くようにしようと、聞くわざ、話すわざのレベルアップを目指す取り組み

6 所感、提言事項、  
課題等

も行われている。

コミュニケーション能力は、最も必要なスキルである事実は場所を選ばない。

残念なのは、中学校高学年になるにつれて学力の優位性が低下していく傾向があることである。

高校受験期に競争がなく、培われてきた学力・学習姿勢の喪失が危惧される。

幼少期、ふるさとで授けられた教育がその個々にとってアイデンティティの熟成に繋がることを期待している。

**【議員氏名】 奥村孝宏**

多治見市は「キキョウスタッフ」をはじめ、独自施策で教育には力を入れている。全国学力・学習状況調査も昨年の結果をみると岐阜県は中学校が7位と上位だが小学校は23位と中間にある。

秋田県は小学校2位、中学校3位で、常にトップ3に君臨する。これには、仙北市だけでなく秋田県として何か教育に対する特別な取り組みがあるのか伺った。

仙北市は小学校が6校、中学校が5校と人口は多治見市の4分の1未満だが、学校は2分の1である。こうしたことから、小学校6校のうち、3校が単級、2校が複式級という状況である。

また、中学校も5校のうち3校が単級という状況で、殆どの学校が少人数クラスということである。

特徴的なのは、日課（時間割）表、特に小学校では朝の会の前に「朝の読書・スキルタイム」を15分設け、2時間目と3時間目の20分休みは「くりっこタイム」と称した九九や漢字の目標を立ててチャレンジする時間を設け、更には昼休み後の5時間目前には「昼の読書」時間を10分設けている。

これで授業時間以外に、毎日45分を自主勉や読書に充てている。これは、仙北市の『教育は積み重ね＝幹がしっかりしてくる』の実践だと思った。

教育指針では、「ふるさとを愛し、豊かな心、確かな学力・健やかな体をもち、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」をスローガンに『骨太の人間の育成』、『仙北市プライドの醸成』を目標に掲げるとともに、『ヤマメ・サクラマスプロジェクト』で、企業も楽しみにしている中学2年生を対象にした企業説明会を取り入れ、地元企業に関心を持ち、将来、地元で働

<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>き、地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子どもの育成を試みている。</p> <p>最後に、教員を補助するスタッフとして、近年増加傾向にある“支援が必要な子ども”に対する『特別支援教育支援員（教科指導不可、生活指導可）』を36名（小学校30名、中学校6名）と生徒指導、特別支援教育担当者として教員のOBを2名採用している。これらは、多治見市でも今後、検討する必要があると考える。</p> <p>以下余白</p>
<p>7 写真等</p> <p>※視察の場合は必須、研修の場合は任意</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>黒沢仙北市議会議長</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>視察の様子</p> </div> </div>

※ 視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※ 「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。